

今月の PICK UP

『炎はつなぐ』 大西 暢夫／著 每日新聞出版 576.4 円



本書は、写真家でドキュメンタリー映画監督でもある著者が、長年かけて全国を回り、32種類にわたる職人たちの仕事を取材したノンフィクションです。自然素材を扱う職人たちは、ものづくりの中で生じた不要と思われるものさえも無駄にせず、それらを異なる伝統工芸職人につなぎ、新たな技術の中で生かしてきました。和蠟燭の木蠟職人から藍染め職人へ、そして陶芸職人へと自然の恵みはつながれ循環されていくのです。本書には、日本の伝統工芸を支え続けた職人たちの知恵と技術、そして自然に対する敬意があふれています。

『ポケットにカメラをいれて』 幡野 広志／著 ポプラ社 743 円



好きなものや、誰かに見せたい風景など、気軽に写真を撮ってほしいと著者はいいます。その反面、本当に大切な瞬間は肉眼でしっかり見るべきともいいます。写真歴25年のカメラマンがその経験の中で感じたことを、自身の病気や家族のこととも交えながら、素直な語り口で紹介しています。添えられた写真にも、なにげない日常がいっぱいです。

司書の おすすめ



『図書館を学問する』 佐藤 翔／著 青弓社 010.4 円



図書館の本棚はいっぱいにならないの？ 図書館の棚に書いてある数字は何？ 雨が降ると図書館に来る人は減る？ 増える？ など、ふだん図書館を何気なく使っているときは気にならない、でも聞かれるとどうしてだろうと思う疑問を、エビデンスに基づいてわかりやすく解説。読んだ後は、いつもの図書館がちょっと違って見えるかもしれません。

『天空遊園地まほろば』 浜口 倫太郎／著 ポプラ社 913.6 円



天空遊園地まほろばは、真夜中にだけ営業している「死者に会える遊園地」。一生に一度、たった1人とだけ1時間会うことができるけれど、決して泣いてはいけない。そんな不思議な決まりがある場所を訪れた5人は、死んでしまった大切な人や自分の心と向き合い、再び前を向いて歩きだします。温かな涙がこぼれる優しい物語です。

『島まみれ帳』 ミロコ マチコ／著 ブロンズ新社 291.9 円



自然の動きに合わせて生き生きと暮らす奄美の島人に感動したミロコマチコさん。お互いを思いやって暮らす島人たちとの出会い、集落の行事などを通して、だんだんと島の暮らしに惹きつけられていきます。「島まみれ」になっていく6年間の日々の記録が、34編のエッセイとイラスト、美しい島の写真で綴られています。絵本作家で画家の著者を虜にした奄美大島を、あなたも訪れてみたくなるかもしれません。